

緊急レポート

令和6年能登半島地震による観光人流の変化

～「デジタル観光統計（国内版）」による分析を通じて

2024年3月7日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

本稿では、デジタル観光統計プラットフォーム「おでかけウォッチャー¹」にて掲載している（株）プログウォッチャーの観光人流データ「デジタル観光統計（国内版）」を用いて、2024年1月1日の令和6年能登半島地震発生後における北陸3県・周辺地域における日本人観光来訪者数の変化を分析する。



分析に用いる「デジタル観光統計(国内版)」は、スマートフォンのGPS位置情報に基づく観光人流データである。プログウォッチャーは、提携する140以上のアプリから個別に利用許諾並びに第三者提供許諾が取れている全国の月間3,000万人の行動ログデータ（5～15分間隔）を保有している。これを各都道府県数百から数千箇所の観光地点（図表1）と照らし合わせ、GPS位置情報が任意の観光地点範囲内の連続して2回以上プロットされ、かつスマートフォンユーザーの推定居住地域から20km以上離れた人数を観光来訪者数として計上している。なお都道府県（市区町村）別観光来訪者数は、域内のいずれかの観光地点で来訪が記録された人数を計上する。

地震発生後、被害の大きかった輪島市、珠洲市などでは、被害の小さい地域の旅館・ホテルへの「二次避難」が推奨され、2024年2月1日時点では5,000人超が利用していた。宿泊施設以外にも、域外の親族・知人宅等に避難する被災者も多いと推察される。これらの移動・滞在は観光人流とは異なるが、位置情報データでは区別が困難である。このため本稿では、石川県能登地方（12市町）、富山県氷見市を発地とする観光来訪者は集計の対象外とする。また集計は日単位で、日別値の合計を月次値とする。

図表1 「デジタル観光統計(国内版)」観光地点登録カテゴリ

カテゴリ	内容
自然資源	山岳、高原、海岸、湖沼、河川、海中、その他自然
史跡・城跡・城郭	古墳、城跡、城郭
神社・寺院・教会	神社、寺院、モスク
庭園・公園	庭園、公園、広場
郷土景観・街・街道	棚田、展望台、著名な坂、郷土景観、街道
美術館・博物館	美術館、博物館、科学館、記念・資料館
動植物園・水族館	動物園、植物園、水族館
建造物	歴史的建造物、デザインの優れた建造物（旧庁舎、橋、ダム等）
温泉・スパ	湯畑、足湯、日帰り温泉施設
スポーツ・アクティビティ	野球場、スキー場、ゴルフ場、テニスコート、キャンプ場、屋内遊技場、釣り場
海水浴場	海水浴場
エンタメ・アミューズメント	レジャーランド・遊園地、テーマパーク、コンサートホール、展示会場、市民ホール
ショッピング・サービス	ビジターセンター、観光案内所、農水産品等の直売所、物産館、道の駅
交通・乗り物	高速道路のサービスエリア・パーキングエリア、離島の空港・海港

資料) プログウォッチャー提供資料を基に九経調作成

¹ <https://odekake-watcher.info/>

1. 北陸3県の観光来訪者数：観光主目的の比率が高い休日に大きく減少

北陸各県の2024年1月における観光来訪者数は富山県で34.3万人、石川県で49.4万人、福井県で39.9万人であった。前年比は富山県▲2.8%、石川県▲0.1%、福井県+3.9%で、富山県・石川県では全国の+1.7%を下回っている（図表2）。

地震などの災害発生後、被災地では観光を主目的とする訪問は減少することが大半である。一方で、救護活動、報道、被災者支援、復旧工事などを主目的とする新しい訪問も発生し、それらの一部が宿泊施設、道の駅など観光地点として登録してある場所へ来訪することが考えられる。位置情報データからは訪問主目的の把握は困難であるが、観光主目的の訪問は休日に、災害関連、特に業務・ビジネスに関する目的の訪問は平日に比較的多いと考えられる。データからも、被害の大きかった能登半島では1月以降、土日の来訪者減少、平日の来訪者増加により、平日と土日の日別来訪者数の差が縮小している（図表3）。

そこで、観光来訪者数を平日と休日（土日・祝日・年末年始（12月29日～1月3日））で比較すると、平日は富山県、石川県ともに全国を上回る前年比プラス幅を示す（+9.6%、+35.6%）のに対し、休日は富山県で前年比▲10.4%、石川県は同▲21.6%と大幅なマイナスを示していることが見て取れる。なお2月の休日に関しては、富山県は前年比+7.3%とプラスに転じたが、石川県は同▲8.2%とマイナスが続いている。

図表2 全国・北陸3県の平日・休日別観光来訪者数

(千人)

		2023年12月	2024年1月			2024年2月		
				前年比	前月比 ※		前年比 ※	前月比 ※
全体	全国	77,279	79,263	+1.7%	+2.6%	73,720	+0.9%	▲0.6%
	富山県	383	343	▲2.8%	▲10.5%	399	+4.3%	+24.4%
	石川県	519	494	▲0.1%	▲4.7%	534	▲1.7%	+15.7%
	福井県	438	399	+3.9%	▲9.0%	419	+10.7%	+12.3%
平日	全国	36,405	33,747	+4.7%	▲2.4%	36,565	+7.6%	+8.4%
	富山県	178	147	+9.6%	▲13.3%	202	+20.2%	+37.5%
	石川県	238	251	+35.6%	+11.2%	285	+19.0%	+13.4%
	福井県	191	143	▲0.5%	▲21.0%	199	+19.9%	+39.3%
休日 (土日・祝日・ 年末年始)	全国	40,875	45,516	▲0.4%	+2.1%	42,562	+4.8%	+12.2%
	富山県	205	196	▲10.4%	▲12.3%	240	+7.3%	+46.9%
	石川県	281	243	▲21.6%	▲20.8%	291	▲8.2%	+43.9%
	福井県	248	256	+6.5%	▲5.3%	275	+24.3%	+29.1%

注) 年末年始は12月29日～翌年1月3日

注) 前月比・2024年2月休日の前年比は日数差を補正済み

資料) ブログウォッチャー「デジタル観光統計」を基に九経調作成

図表3 能登地方における市区町村別観光来訪者数（おでかけウォッチャー「来訪地分析」）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー」

2. 市区町村別観光来訪者数：1月は北陸・周辺各地で減少も、2月は能登地域を除き回復基調

減少幅が大きかった休日の観光来訪者数について、市区町村別に前年と比較する（図表4、図表5）。

金沢市の2024年1月休日における観光来訪者数は前年比▲32.1%となった。同市内の有名観光地である兼六園の2024年1月来園者数が同▲38.7%であったが²、市全体でみても近い減少幅を示している。なお2月休日は同▲1.2%と回復に向かいつつある。

地震による被害の大きかった能登地域でも、和倉温泉などの観光地を有する七尾市では、1月2月ともに前年からの減少率が高い。一方で珠洲市では、災害関連の訪問が多いこと、またアクセス困難により災害関係者の土日にまたがったの滞在比率が高いことから、休日限定しても前年比プラスとなった。なお輪島市は、「輪島あえの風冬まつり」の非開催により、2月の前年比マイナスが際立ったと推測される。

このほか北陸では、富山市、高岡市、小松市、加賀市、坂井市、白山市で2カ月連続の前年比マイナスとなった。また新潟県糸魚川市、上越市、岐阜県高山市、飛騨市、白川町など、北陸との周遊ルート上にある隣県市町村でも、1月に観光客の減少がみられた。なお高山市、白川村では2月も前年比マイナスが続いている。

² 出典：石川県観光データ分析プラットフォーム「Milli」<https://sites.google.com/view/milli-ishikawa-pref/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>（最終閲覧日：2024年2月26日）

図表4 市区町村別観光来訪者数

(千人)

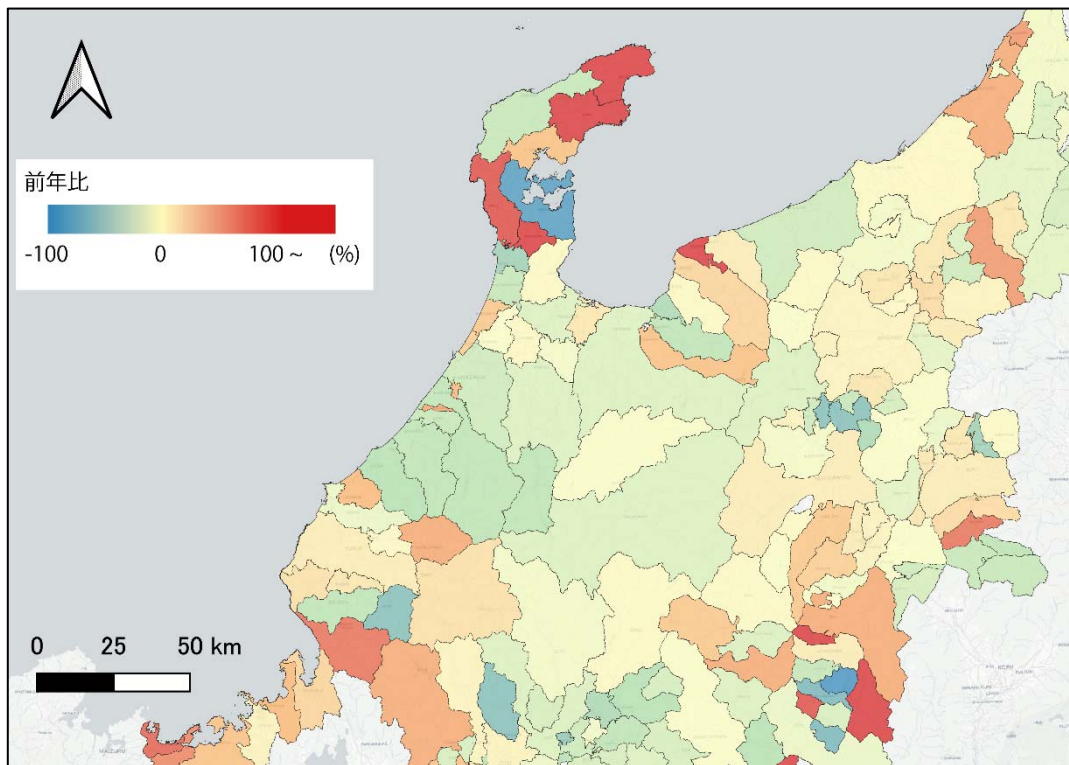
	2024年1月		2024年2月	
	休日	前年比	休日	前年比 ※
新潟県新潟市中央区	112.1	+7.8%	113.6	+1.9%
新潟県長岡市	52.5	▲9.5%	70.5	+0.6%
新潟県糸魚川市	18.1	▲41.3%	33.3	+8.3%
新潟県上越市	35.8	▲14.4%	55.4	+19.6%
富山県富山市	71.6	▲11.1%	73.8	▲4.5%
富山県高岡市	25.3	▲15.4%	32.6	▲6.6%
富山県魚津市	23.4	▲2.4%	34.0	+3.3%
富山県氷見市	3.5	▲2.5%	6.2	+7.3%
富山県黒部市	8.3	+18.7%	18.9	+20.3%
富山県南砺市	23.6	▲28.9%	27.9	+21.2%
石川県金沢市	69.8	▲32.1%	110.2	▲1.2%
石川県七尾市	9.0	▲67.3%	5.8	▲85.5%
石川県小松市	17.1	▲37.2%	24.0	▲5.9%
石川県輪島市	8.5	▲0.5%	5.7	▲35.1%
石川県珠洲市	10.0	+133.9%	6.6	+74.8%
石川県加賀市	14.1	▲41.2%	22.7	▲17.6%
石川県白山市	39.2	▲34.6%	45.9	▲2.4%
福井県福井市	37.5	▲1.3%	34.9	+26.7%
福井県敦賀市	24.6	+17.5%	24.9	+25.7%
福井県大野市	14.6	+24.1%	18.2	+6.5%
福井県勝山市	52.2	+28.2%	68.2	+51.7%
福井県鯖江市	5.8	▲14.4%	9.3	+39.4%
福井県あわら市	7.6	+32.2%	11.9	+36.3%
福井県越前市	18.6	▲39.0%	12.1	+56.9%
福井県坂井市	36.6	▲5.4%	36.8	▲5.3%
長野県長野市	187.1	▲3.2%	153.5	+29.7%
長野県松本市	123.3	+4.1%	119.9	+20.6%
岐阜県高山市	89.6	▲11.4%	95.3	▲5.8%
岐阜県飛騨市	17.4	▲16.9%	22.5	+15.3%
岐阜県白川村	9.3	▲39.2%	13.5	▲8.5%

注) 休日は土日・祝日(振替休日含む)・年末年始(12月29日～翌年1月3日)

注) 前月比・2024年2月休日の前年比は日数差を補正済み

資料) ブログウォッチャー「デジタル観光統計」を基に九経調作成

図表5 市区町村別観光来訪者数前年比(1～2月休日)



注) 休日は土日・祝日(振替休日含む)・年末年始(12月29日～翌年1月3日)

注) 前年比は日数差を補正済み

資料) ブログウォッチャー「デジタル観光統計」を基に九経調作成

3. 発地別観光来訪者数：金沢市では南関東・近畿からの観光来訪者のマイナス続く

観光来訪者数の減少が大きい金沢市について、1月と2月の休日における観光来訪者数を発地別に比較する（図表6）。

昨年12月時点で最も多い発地であった南関東は、地震発生後に大きく減少し、1月は前年比▲50.4%、2月も▲7.3%と全体（全国）よりもマイナス幅が大きい。一方で、甲信越、北陸、東海、近畿などは、2月には前年比プラスに転じている。北陸に関しては、富山県からの来訪者増加が目立っている。

同様に、金沢市以外の北陸主要都市の発地別来訪動向にみると、高岡市、七尾市、加賀市では、南関東、甲信越、北陸、東海、近畿などの主要発地がいずれも、地震後は前年比マイナスとなっている（図表7）。他方で、福井市、坂井市は、近畿は前年比マイナスだが、南関東や北陸は前年比プラスとなっている。新幹線開業直前のメディア露出もあり、南関東からの観光客の目的地が富山県・石川県から福井県に代替されている可能性も考えられる。なお北海道・東北、中国・四国、九州・沖縄の前年比プラスは、災害関係者（とりわけ公務員、医療、インフラ関係）の来訪によるものと推測される。

図表6 発地別観光来訪者数（金沢市）

（千人）

来訪地・来訪日 発地	金沢市				
	2023年 12月休日	2024年 1月休日	前年比	2024年 2月休日	前年比 ※
全国	117	70	▲32.1%	110	▲1.2%
北海道・東北	4.1	3.3	+37.7%	2.7	+16.5%
北関東	4.4	2.2	▲25.8%	2.4	▲21.1%
南関東	29.7	14.2	▲50.4%	26.6	▲7.3%
甲信越	5.7	3.4	▲27.3%	4.8	+1.9%
北陸	29.2	19.8	▲32.9%	32.5	+3.5%
（富山県）	13.5	8.3	▲35.4%	16.4	+33.7%
（石川県）	9.5	8.2	▲15.4%	8.6	▲25.4%
（福井県）	6.2	3.3	▲52.6%	7.5	▲1.6%
東海	16.8	7.7	▲32.2%	12.5	+13.2%
近畿	18.5	15.0	▲18.3%	23.4	+3.5%
中国・四国	4.7	2.3	+22.6%	2.5	▲41.0%
九州・沖縄	3.7	1.9	▲36.7%	2.9	▲18.6%

注）休日は土日・祝日（振替休日含む）・年末年始（12月29日～翌年1月3日）

注）2024年2月休日の前年比は日数差を補正済み

資料）ブログウォッチャー「デジタル観光統計」を基に九経調作成

図表7 発地別観光来訪者数（北陸主要都市）

(千人)

来訪地・来訪日 ＼ 発地	富山市		高岡市		七尾市	
	2024年 1~2月休日	前年比	2024年 1~2月休日	前年比	2024年 1~2月休日	前年比
全国	145.4	▲7.6%	57.9	▲9.8%	14.9	▲77.8%
北海道・東北	2.7	+36.6%	1.6	+136.7%	1.0	+90.3%
北関東	1.5	▲35.9%	1.5	+7.3%	0.6	▲13.4%
南関東	18.5	+4.3%	11.2	▲14.7%	2.3	▲67.2%
甲信越	7.5	▲2.5%	2.2	▲49.5%	0.5	▲79.4%
北陸	95.1	▲4.8%	25.0	▲8.7%	5.5	▲87.5%
（富山県）	77.1	▲8.2%	15.5	▲2.8%	2.0	▲88.9%
（石川県）	15.2	+6.5%	8.8	▲10.6%	2.8	▲87.3%
（福井県）	2.8	+71.7%	0.7	▲56.2%	0.6	▲80.4%
東海	10.2	▲28.0%	6.5	▲11.4%	1.8	▲65.0%
近畿	7.0	▲34.6%	6.9	▲17.0%	2.1	▲69.4%
中国・四国	1.6	▲20.1%	1.3	+53.3%	0.7	+184.8%
九州・沖縄	1.3	+60.7%	1.7	+121.7%	0.5	+21.8%

来訪地・来訪日 ＼ 発地	加賀市		福井市		坂井市	
	2024年 1~2月休日	前年比	2024年 1~2月休日	前年比	2024年 1~2月休日	前年比
全国	36.8	▲28.0%	72.4	+10.1%	73.4	▲4.9%
北海道・東北	0.6	+55.3%	0.6	▲25.4%	0.4	▲53.8%
北関東	0.6	+36.0%	0.3	▲70.2%	1.0	+53.3%
南関東	3.8	▲8.9%	8.1	+17.7%	6.0	+20.3%
甲信越	0.7	▲22.4%	2.0	+28.9%	0.8	▲0.2%
北陸	20.7	▲18.6%	35.9	+20.9%	41.0	+4.7%
（富山県）	2.0	▲2.9%	2.6	+24.1%	3.8	+28.9%
（石川県）	10.3	▲16.2%	8.6	+62.3%	12.7	▲5.4%
（福井県）	8.4	▲24.1%	24.7	+10.8%	24.5	+7.5%
東海	2.5	▲26.7%	9.3	+19.5%	7.7	▲34.6%
近畿	6.2	▲59.4%	14.4	▲12.1%	15.0	▲15.0%
中国・四国	0.7	+161.9%	0.8	▲4.3%	1.0	▲3.3%
九州・沖縄	1.0	+38.2%	1.0	+22.5%	0.6	+87.1%

注) 休日は土日・祝日（振替休日含む）・年末年始（12月29日～翌年1月3日）

注) 前年比は日数差を補正済み

資料) ブログウォッチャー「デジタル観光統計」を基に九経調作成

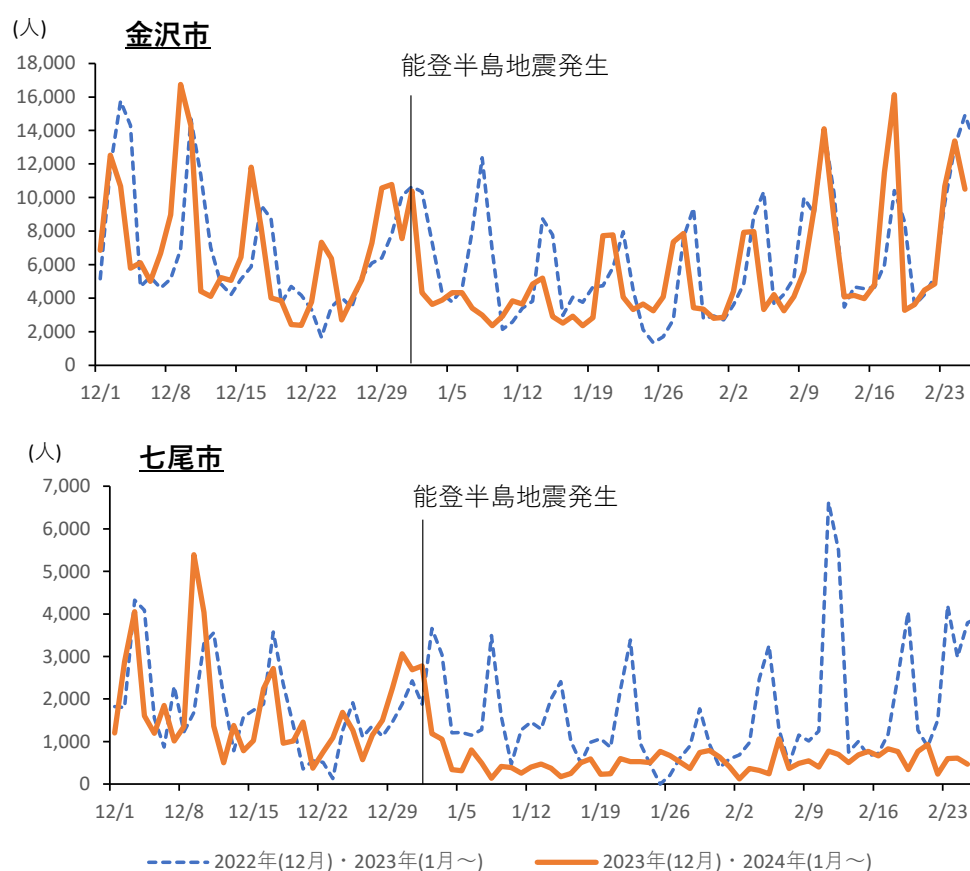
4. 日別観光来訪者数：金沢市は2月下旬は前年比プラスに 七尾市は低迷続く

観光来訪者の減少人数が多かった金沢市と七尾市について、日別の推移をみる（図表8）。

金沢市では地震発生直後の週末（1月6～8日）には前年の40%にも満たない観光来訪者数であったが、1月20日には前年並みに回復、その後は横ばいが続いたものの、2月11日には再び増加し、翌週の17日には前年を大きく上回るに至っている。同週の増加には、富山県や大阪府からの観光来訪者の増加が寄与している（図表9）。

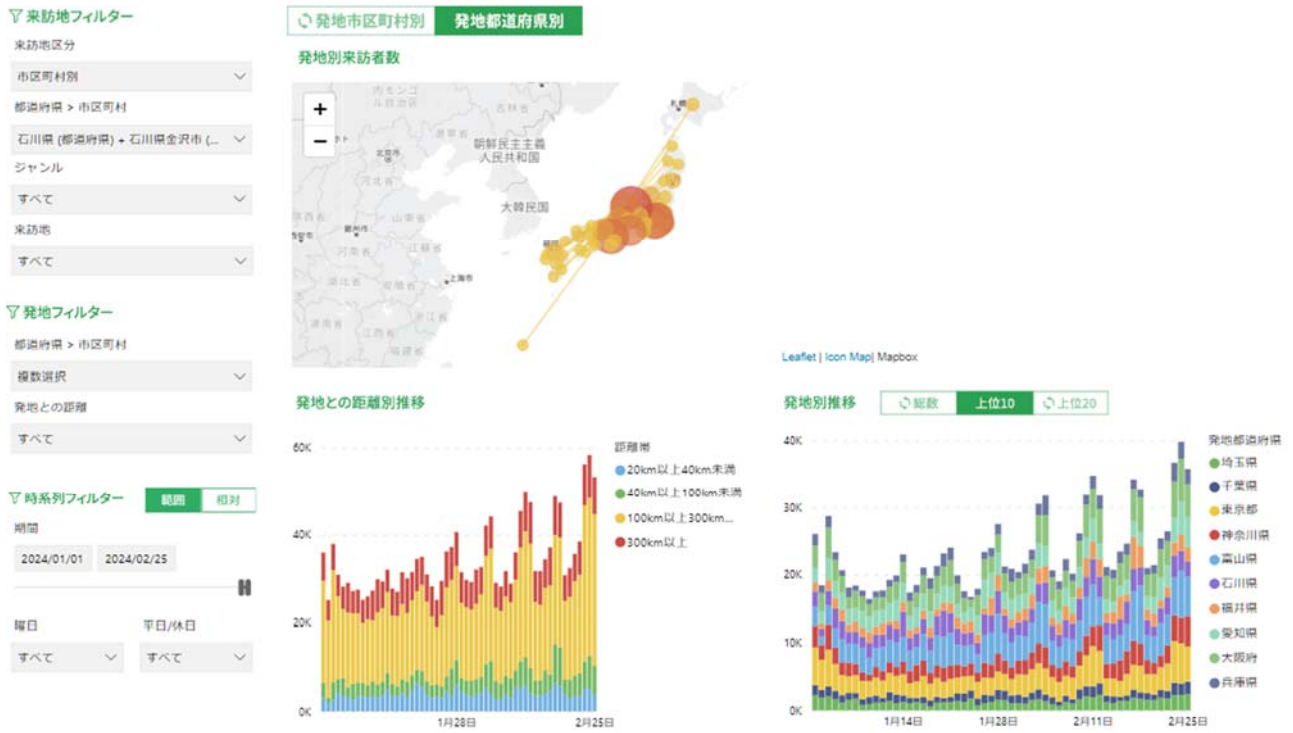
一方、七尾市では、地震により多くの宿泊・観光施設が被災し、現在も営業休止が続いていることから、地震発生後の減少から全く回復に向かっていない状況がデータから示されている。

図表8 発地別観光来訪者数（金沢市・七尾市）



資料) ブログウォッチャー「デジタル観光統計」を基に九経調作成

図表9 金沢市発地別観光来訪者数推移（おでかけウォッチャー「発地分析」）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー」

おわりに

本稿では、「おでかけウォッチャー」にて掲載している「デジタル観光統計（国内版）」から、能登半島地震発生後の日本人観光来訪者数の変化を分析し、以下の点が明らかになった。

- 1月休日の観光来訪者数は、地震による被害が大きかった能登地域のみならず、北陸や周遊ルートとなる多くの市町村で前年から減少しており、影響が広範に及んだ。
- 2月休日はマイナス幅が縮小し、回復傾向にあるものの、富山県・石川県の各地、および坂井市（福井県）や高山市・白川村（岐阜県）など近隣観光地域の一部では2カ月連続のマイナスとなっている。
- その要因として、北陸観光の主要マーケットである三大都市圏（南関東、東海、近畿）や域内・近隣（北陸・甲信越）を発地とする来訪者の減少が特に大きくなっている。ただし福井県では、新幹線開業直前のメディア露出や被災地からの代替もあり、南関東からの観光来訪者が増加している。
- 石川県において、金沢市でも中旬以降は前年を上回る日もみられるなど、回復に向けた明るい兆しがみえられているが、他方で、能登地方では未だ回復の兆しすら見えない状況にある。

3月16日の「北陸応援割」の開始、そして同日の北陸新幹線金沢・敦賀間開業など、3月は北陸観光にプラスのニュースが相次ぐ。これらを経て、まずは風評被害を払拭し、然るべき時期に実施されるであろう能登地方の観光復興キャンペーンに向けて、北陸全体を盛り上げ続けることが重要となるだろう。

「おでかけウォッチャー」で提供する位置情報ビッグデータが、これらの観光人流を迅速に把握し、効果を最大化する施策検討の一助となれば幸いである。

渡辺 隼矢（事業開発部 研究主査）

岡野 秀之（常務理事兼事業開発部長）

酒井 幸輝（(株) ログウォッチャー おでかけ研究所 所長）

「おでかけウォッチャー（<https://odekake-watcher.info/>）」について

- コンセプトは「**デジタル観光統計を身近に**」。
観光に係わる人流の動きの可視化による政策立案の支援、ひいては観光産業や観光による地域の活性化を目的に2022年にサービス開始
- (株) ログウォッチャーが保有する3,000万MAUのスマートフォン位置情報を基に、観光スポットごとの人流を準リアルタイムで可視化
- フィルター・ダッシュボード操作を通じ、必要な情報を誰でも簡単に確認・抽出が可能
- 行政・自治体・DMO・観光協会の方は基本機能（来訪地分析）を無償で利用可能
- プレミアムサービス（有償）では、モニタリングスポット指定のほか、観光客の発地・属性・旅程の分析や観光スポット間の周遊分析、時間帯別の来訪分析を提供

The screenshot displays the Odekake Watcher website. At the top, there are navigation tabs for '発地分析' (Origin Analysis), '発地分析' (Origin Analysis), '属性分析' (Attribute Analysis), '経路分析' (Route Analysis), '時間分析' (Time Analysis), and '機能分析' (Function Analysis). The main heading is 「デジタル観光統計」を身近に (Digital Tourism Statistics Close to You). Below this, it states: 自治体観光客分析に特化した人流モニタリングツールの運営・開発・提供・DMO・観光協会の方は基本機能を無償でお使いいただけます。 (Operation and development of a tourism visitor analysis tool specialized for local government and DMO/tourism association users, with basic functions provided free of charge). There are buttons for '基本サービス（無償）も利用可能' (Basic service (free) also available) and 'お問い合わせ' (Contact Us). A 'TOPICS' section shows a date '2024.02.15' and a link to a news article. Below is a 'CONCEPT' section with an image of a market stall and text explaining the service's goal: 「デジタル観光統計」を身近に。これからの観光行政には、よりきめ細やかな人流データに基づく政策立案が求められ、そして持続可能な観光地づくりの実現が求められています。「おでかけウォッチャー」は、それを実現するための最適なデジタル観光統計を、全国観光地からご提供いたします。 (Digital Tourism Statistics Close to You. For future tourism administration, more detailed and accurate flow data-based policy-making is required, and the realization of sustainable tourism destinations is required. Odekake Watcher is the optimal digital tourism statistics to achieve this, providing it from all over Japan.) A small text at the bottom mentions: 本サービスの開発には、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の委託開発「データ連携・利活用による地域課題解決のための実証実験実証（第3期）」の研究成果の一部が活用されています。 (The development of this service utilizes part of the research results from the 'Data Linkage and Utilization for Solving Regional Issues through Practical Experiments (Phase 3)' commissioned by NICT.)

参考：データ定義など

① 活用する位置情報データ

(株) ブログウォッチャーの 140 以上の提携アプリをダウンロードし、位置情報の取得を許可した 3,000 万 MAU 以上のスマートフォン端末から取得した GPS の位置情報等のデータを、特定の個人が識別されない形式に加工して活用しています。

② 用語定義

● 発地・勤務地域

直近 2 ヶ月間での夜間滞在場所の出現日数/頻度が一定を上回る 250m メッシュを発地、直近 2 ヶ月間での昼間滞在場所の出現日数/頻度が一定を上回る 250m メッシュを勤務地域と定義。

● 観光スポット来訪者数

発地から 20km 以上離れ、かつ位置情報ログ (5~15 分間隔で取得) が勤務地域ではなく、観光スポットの範囲内に連続して 2 回以上記録された人数を 1 日単位でカウントしたのち、住民基本台帳人口に占める取得サンプル全数の居住者割合をもとにした拡大係数を乗じた数。

● 都道府県・市区町村来訪者数

域内いずれかの観光スポット来訪者を都道府県 (市区町村) 来訪者と定義し、その人数をカウント (ただし、全国は都道府県別観光来訪者数の総和)。

③ 本稿の分析にて用いたデータ

● 来訪者数を集計する観光スポット (「デジタル観光統計 (国内版)」)

14 カテゴリーからなる各都道府県数百から数千箇所の観光地点 (範囲は 10m 四方メッシュの集合にて指定)

● 被災地を発地とする観光来訪者数データの除外

石川県能登地方 (七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、かほく市、津幡町、内灘町、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町の計 12 市町)、富山県氷見市を発地とする観光来訪者は分析から除外する

● 平日・休日の取り扱い

土日・祝日 (振替休日含む)・年末年始 (12 月 29 日~翌年 1 月 3 日) を休日とし、残りを平日とする。なお、前月比・前年比は、日数差を補正するため、1 日あたりに観光来訪者数に変換したのちに算出する